

南陽市小中学校

適正配置等検討委員会だより 第4号

令和6年10月16日発行 検討委員会事務局(学校教育課・管理課)

令和6年2月29日に発足した「南陽市小中学校適正配置等検討委員会」(以下「検討委員会」といいます。)では、児童生徒の将来推計をもとに、望ましい学習環境や学級数の推移、教員の配置、法令等から見た適正規模などの情報を踏まえ、小学校、中学校それぞれの考えられる課題などについて協議・検討しております。

このたびは、令和6年8月29日に第4回検討委員会を開催しました。
協議・検討の内容について、市民の皆様へお知らせします。

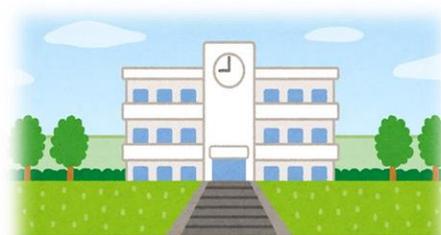
第4回検討委員会について

【第4回会議の内容】

- ・第4回 南陽市小中学校適正配置等検討委員会 令和6年8月29日開催
- ・主な議事
 - 1 前回会議(6月27日開催)のまとめ
 - (1)南陽市立中学校の適正規模について
 - 2 南陽市立小学校の適正規模について

第4回の検討委員会では、上記の議事について、検討委員会における共通の認識を得るための協議(意見交換)を行いました。今回は、小学校について協議(意見交換)を行っております。

委員からの意見や質問などについて、以下、概要を掲載します。(議事録を市のホームページに掲載しています)



※ 発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

小規模化する小学校で生じる課題の整理と将来の在り方

- ・ これからの学校作りはあくまで「子供を主語に」ということをブレずに考えていかなければならない。その為には「多様な意見・考えに触れる機会」「議論したり意見交換する機会」といった環境を確保していく必要がある。

人口がこれから急にV字回復するということは恐らく「ない」という中で、議論を進めていく必要があるのでは。
- ・ これからの児童数減少を見越して統合を考えた場合、統合したとしてもすぐに標準規模を維持できなくなる学校も出てくるのが考えられ、そうした学校をどうしていくかが課題だ。

例えば、そうした小規模の学校の中に、地域の人達が何か活動をするための仕組みをつくり、子供達が常にそういう人達と関わりが持てるような環境を整えられたら面白いのではないか。
- ・ ハード面を見ると、校舎がかなり古くなっているものが多い。建て替えの方向性も考えながら、統合や別の用途での活用など、地元から希望があるかも踏まえて考える必要があるのではないか。
- ・ 個人的には、今の学校体制をギリギリまで維持していただきたいと考えているが、現在の子どもの減少を考えると統合へ向かうのかと思っている。今現在、市内中学校は3校であるので、小学校を統合する場合はそこに合わせた3校という形が、地域の理解も早いのでは。
- ・ 現在急激に減り続けている子どもの数を考えると、小学校もゆくゆくは1校にせざるを得ないのでは。その一方で、現在もなお、市民の中には昔の旧町村単位の地域性を大事にしている部分も否定できないので、最終的に「1校」を目指すにしても、赤湯・沖郷・宮内の3つの枠組みを大事に、出来るだけ小規模校を継続させていくことも必要ではないか。
- ・ 子供がずっと複式学級で学んできた経験から言えば、子供たちにとって複式学級はとても良いと思う。先生からの手厚い指導があり、勉強の身につけ方等は大きい学校とはやはり違う。

ただ、同じ複式でも1学年に2人しかいない等となると、多様な意見を得るという点からは厳しい。そのような状況が発生した時点で、統合の決断が必要ではないか。
- ・ 小学校を3校に統合したとして、その学校が結局またすぐに統合しなければならないのなら、初めからどこかと一緒になって、市内の小学校は「2校」ないし「1校」という選択肢もあるのではないか。ただこの場合は、統合後の小学校をどこにどういうふうにするかが大きな課題と思う。

- ・ 統合後の小学校を「1校」にすることはできるのか。議論の主流は「3校にする」「2校にする」ということだが、3校や2校にしても、いずれもっと減っていき1校にせざるを得なくなるのでは。
- ・ 統合するとなった場合は、例えば「南陽小学校」として、1校にする方がまとまりやすいのでは。
- ・ 統合は賛成で、大きい学校は1校でも2校でも良いと思うが、一方で不登校の子や教室に入れな
い子も増えている。そういったこの受け皿となる存在も必要なのでは。
なかなか大きい学校に馴染めないお子さんや、つらい思いをしているお子さんのための「何か」
が欲しい。
- ・ 適正規模を考えると、不登校等の子らにとっての「適正規模」とは、あまり大きくない方が良
いこともあるのでは。
- ・ 将来的には1校、途中の段階で3校が良いのではないか。ただ、「地域との関わり」という点では、
小規模校の良さというものは確かにある。これから統合が進むと休校、閉校になる学校が増える
ことから、そういった学校の校舎を「地域との関わり」の観点からどう利用していくかが課題と思う。
- ・ 小学校のあり方については、現時点で3校体制や2校、1校といった考えがあると思うが、旧町村
の枠組みに沿った3校となれば、統合してもすぐ児童数が減少し始める学校が出てくるのでは。
ただ、統合する学校の組合せを工夫すれば、当分の間3校体制を維持することも可能と思う。
そういう意味で、南陽市はいつまでも合併前の2町1村の枠組みにこだわる段階ではないのでは。
- ・ 市内の幼稚園児は、例えば赤湯幼稚園だからと言って赤湯の子ばかりではない状況。旧町村
の枠組み(赤湯、宮内、和郷)にこだわる必要はもはや無いのではないか。
- ・ 小学校で、いわゆる旧町村の枠組みにこだわって「3校」への統合を考えると、学校によっては
学級数の関係でまたすぐ再検討が必要になってしまう。ある程度「規模の確保」を踏まえて「南陽
は一つ」という観点で検討をした方が良いと思う。



第4回のまとめ

- ・ 今回は、「小学校の適正規模」に絞って検討を行いました。
- ・ 多様な意見が出されましたが、子供にとって望ましい教育環境を整えるために
○学校を一定規模以上で、具体的には、国で定める「12学級から18学級」に近づけていく
○統合後の学校数は、当面「3校」あるいは「2校」が望ましい
という趣旨で、中学校での議論と同様の意見が多数ありました。
また、統合にあたっては「南陽は一つ」の考えのもと、旧町村の枠組みにこだわらず、ある程度の規模を確保していくことを踏まえて検討すべき、との意見も多くありました。
また、現在の児童数の急激な減少から、いずれは「1校」への道筋もつけておくべき、との意見もありました。
- ・ そのほか
「現在ある小規模校については出来るだけその良さを大事にしていきたい」
「小規模校の統合にあたっては、その校の保護者の意見を参考にしてほしい」
「統合にあたっては、校舎の建て替えや地元での再利用の可能性等も考慮して進めるべき」
「小学校の校舎の中に地域の人が活動をするスペースがある等、新しい仕組みもあって良いのではないか」
等の意見が出されました。
- ・ 次回、第5回目の検討委員会では、これまで出された意見を整理し、教育委員会への答申(案)を検討、作成していきます。

次回の検討委員会について

- ▶会議名 第5回 南陽市小中学校適正配置等検討委員会
- ▶開催日時 令和6年10月24日(木) 19時00分から
- ▶開催場所 赤湯公民館 中会議室
- ▶議題 ・これまでの議論の整理、答申(案)の検討

【問い合わせ先】

適正配置等検討委員会事務局

▶南陽市教育委員会事務局 学校教育課・管理課

▶TEL 40-3211(代表)



検討委員会の開催概要や議事録は、南陽市教育委員会のウェブページでも掲載しています。

(南陽市小中学校適正配置等検討委員会のページ)

<http://www.city.nanyo.yamagata.jp/kyoui/5564>

※ 右のQRコードから上記ページへ→

